

MORI LIVINGで暮らす理由。



I WILL SHOW YOU.
LET'S GO!

Kelly Wetherille

ケリー /フリージャーナリスト
10年以上東京に滞在し「Tokyo weekender」の元編集長を務めるなど旅行、不動産、デザイン、建築など幅広い分野に精通。MORI LIVINGの公式ブログ「MORI LIVING Diary」にて、居住者が得られる体験や街の取り組みなどを紹介している。
<http://www.moriliving.com/ja/diary>

世界一の安心・安全をめざす 災害に強いレジデンスの 裏側とその秘密を探る

逃げ出すのではなく、自宅を安心して過ごせる場所に。そんなコンセプトで災害へ備えるMORI LIVING。どんな対策が施されているのか、ナビゲーター役にフリージャーナリストのケリーさんを迎えて、備蓄倉庫や免震ダンパー、現場の取り組みなど、施設の裏側を巡る。

Photographs by Satoshi Nagare
Text by Kelly Wetherille
Edit by RCKT/Rocket Company*

柱の直下に設置された「積層ゴム」「鋼棒ダンパー」「鉛ダンパー」の3種類の免震装置で、地震エネルギーを吸収。



マンション探しの最も大きなポイント、それは「安全」です。最近エコノミスト誌において「世界で最も安全な都市」に選ばれた東京ですが、それは「危険がない」という意味ではありません。日本は世界で最も地震活動が活発な国のひとつとして数えられ、大規模な自然災害に備えて準備を万全に整えるよう心がけておく必要があるのです。もしもあなたがMORI LIVINGに住んでいるなら「自分は東京で最も強い建物のひとつに住んでいる」と胸を張ることができるでしょう。実際、MORI LIVINGでは構造上の強みをはるかに超えた次元で、安全に対する備えがされています。すべての居住者に安全・安心を届けるために行われるさまざまな対策について、六本木ヒルズレジデンスのフロントマネージャーの中井秀幸さんと設備マネージャーの野呂祐二さんにお話を伺いました。
「フロントスタッフにとって最優先事項は、常に居住者



万一停電になった場合に稼働させる非常用発電機。

の皆様です」と話すのは中井マネージャー。「万一、大地震が起こった場合、真っ先に日本語と英語で状況をアナウンスします。その内容がたとえ単に「現在調査中です」や「詳細は分かり次第お知らせします」という段階でも、入居者皆様にご安心頂き、落ち着いて行動頂くためです」。また野呂マネージャーは災害時の対応について、「六本木ヒルズを中心とした半径2.5km圏内のエリアに約100戸の防災要員社宅を設置して、休日・夜間に関わらずスムーズな復旧活動に移行できる体制を整えています」と教えてくれました。MORI LIVINGのすべての物件は、震度7でも崩壊しない新耐震基準を満たし、さらにそれぞれの建物特性に適した制震・免震の技術が使われているそう。つまり、大規模地震では、居住者は建物から逃げ出すのではなく、自宅が避難場所として逃げ込める場所になるのです。

更なるMORI LIVINGの安心安全への取り組み

揺れが止まった後も、MORI LIVINGのスタッフは居住者の安全を確保し、その不安を取り除くために昼夜を問わず働き続けます。「各レジデンスのフロントスタッフは全居住者のリストを把握しています」と中井さん。このリストは高齢者や身障者、小さい子供がいる家庭など、移動困難者が上位に来るよう毎月更新されているそう。災害が発生すると、スタッフはこのリストに添って、インターホンや直接訪問しながら居住者の安否確認をします。また、各居住者用に3日間3食の非常食と飲料水を用意し、中には生活用水として利用できる非常用井戸を設けているレジデンスもあります。万一街全体が停電になった場合でも、非常用発電機を稼働させることで、非常用工



六本木ヒルズレジデンスの中井フロントマネージャーと。



各戸に配布予定の災害対策キットは、持ち運びが楽なキャリー付き。バックパック自体も30リットルまでの水を選ぶことができる設計になっている。

YOU CAN
FEEL SECURE.



レベーターなど最低限の電力を送ることができることも、大きな安心に繋がります。

更に興味深い取り組みが「エマージェンシーキット」。この特製キットは、水運びに使えるバッグ、カート、懐中電灯、ドライシャンプー、体拭き用のウェットタオル、緊急用トイレなどが入り、「すべての居住者が自宅で安全・安心に過ごせること」を目的として各戸へ配られます。更に、災害時の「エマージェンシーキット」の使い方を実際に体験できる居住者イベントが随時開催されているなど、新たな試みが行われています。このようにMORI LIVINGでは、どんな不測の事態に対しても対応できるように、できる限りの備えを整えて日々の暮らしを支えているのです。



非常時の食料・飲料を各居住者用に貯蔵する備蓄倉庫。

- A** 「入居者登録」を元に行われる安否確認。ご高齢の方やお身体の不自由な方など、状況に応じてサポート。
- B** およそ100戸の防災要員社宅を設置し、24時間365日いち早い居住者の安全確保とスムーズな復旧活動を可能に。
- C** 全社員による総合震災訓練を毎年実施し、24時間365日いち早い居住者の安全確保とスムーズな復旧活動を可能に。
- D** 一部物件では、災害時でも水野供給が可能な災害用井戸を設置。トイレの排水をはじめ生活用水として利用。